

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2 フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839

購読料 〒共1カ月 500円
印刷 コロニー印刷

第553号

12月号 TOPICS

- 2面…仙台国税局へ要請
- 3面…医療機関が発行する文書の費用
- 4面・5面…定期総会協賛広告
- 6面…審査情報提供事例(歯科)
- 7面…つるさんのお店探訪
- 8面…気になるワインの話

第50回定期総会 市民公開講演に250名



第50回定期総会

開会あいさつ
(中島幸裕理事長)

250名が聴講した記念講演



講師の海原純子先生



来賓あいさつ(舟山康江参議院議員)

「診療報酬改定への対応」は、昨年6月の診療報酬改定に対応するテキストを発刊し、会員医療機関の相談に対応。来年6月の診療報酬改定を見据え、理事会で問題点を整理し、厚生労働省へ要望している。「入会への取り組み」では、今年度は28名もの新会員を迎えた。

決議

田中雄二理事より、診療報酬の大幅な増額、物価高騰対策への持続的な財政支援、健康保険証の存続とマイナ保険証の併用などを求める決議が提案され、拍手で決議が採択された。

懇親会

続いて、懇親会を開催。舟山康江参議院議員、芳賀道也参議院議員、菊池大二郎衆議院議員代理より挨拶をいたいた。そのほか、吉村美栄子県知事、市民公開講演の後援をいたいた。山形市の佐藤孝弘市長などから多くの祝電をいたいた。(8面参照)。懇親会では音楽ユニット SHIN SEN MUSICAによるクラシックの生演奏に耳を傾けながら、和やかに懇親を深めた。

星系で形成され、星間空間を旅して太陽系に一時的に入り込んできた天体のことだ。彗星や小惑星、あるいは惑星のような天体(ただし恒星やその残骸ではない)が含まれる。これまでに三つの天体が発見されている。一つ目は2017年11／オウムアムア、二つ目は2019年21／ボリソフ、そして、本年5月の31／アトラスである。今は10月、10月の終わりには31／アトラスは太陽に最も接近した。本稿が掲載される12月半ばには地球に最接近し、あとは太陽系から遠ざかるそうだ。今夏の31／アトラスはかなり大きく、予想外のデータが観測されているという。大きさも20数キロで長い尾を有しているそうだ。構造的にもいろいろな新発見があり、多くの学者の関心を引いている。NASAがトランプ大統領の人員削減のせいで様々な公表ができないでいるという説の一方、これは実は悪意を持つた異星人の宇宙船だから、NASAは真実を伝えてないのだといったフェイクじみた話も、まことしやかなAI画像付きでSN Sを騒がせている。また「奇跡のリング」の木村秋則氏の「ホピ族の青い星」ではないか、世界の終わりではないかといふ噂も広まっている。

要望。県議にも依頼し、県議会で協会がまとめた全国の支援状況を基に質問と要望を行つてもらうなどの取り組みの結果、5月の追加支援金は同額の2万円だつたが、9月の支援金は5万円に増額された。今後も継続的な支援と増額を求め、要望していく。

今後も医療活動部、広報組織共済部、庶務財政部など各専門部が一体となり取り組んでいく。

市民公開講演を行い、会員、来賓、市民約250名が聴講した。(講演の詳細は次号に掲載予定)

恒星間天体が話題になつてゐる。恒星間天体とは、太陽系の外、つまり別の恒星系で形成され、星間空間を旅して太陽系に一時的に入り込んできた天体のことだ。彗星や小惑星、あるいは惑星のような天体(ただし恒星やその残骸ではない)が含まれる。これまでに三つの天体が発見されている。一つ目は2017年11／オウムアムア、二つ目は2019年21／ボリソフ、そして、本年5月の31／アトラスである。今は10月、10月の終わりには31／アトラスは太陽に最も接近した。本稿が掲載される12月半ばには地球に最接近し、あとは太陽系から遠ざかるそうだ。今夏の31／アトラスはかなり大きく、予想外のデータが観測されているという。大きさも20数キロで長い尾を有しているそうだ。構造的にもいろいろな新発見があり、多くの学者の関心を引いている。NASAがトランプ大統領の人员削減のせいで様々な公表ができないでいるという説の一方、これは実は悪意を持つた異星人の宇宙船だから、NASAは真実を伝えてないのだといったフェイクじみた話も、まことしやかなAI画像付きでSN Sを騒がせている。また「奇跡のリング」の木村秋則氏の「ホピ族の青い星」ではないか、世界の終わりではないかといふ噂も広まっている。

恒星間天体が話題になつてゐる。恒星間天体とは、太陽系の外、つまり別の恒星系で形成され、星間空間を旅して太陽系に一時的に入り込んできた天体のことだ。彗星や小惑星、あるいは惑星のような天体(ただし恒星やその残骸ではない)が含まれる。これまでに三つの天体が発見されている。一つ目は2017年11／オウムアムア、二つ目は2019年21／ボリソフ、そして、本年5月の31／アトラスである。今は10月、10月の終わりには31／アトラスは太陽に最も接近した。本稿が掲載される12月半ばには地球に最接近し、あとは太陽系から遠ざかるそうだ。今夏の31／アトラスはかなり大きく、予想外のデータが観測されているという。大きさも20数キロで長い尾を有しているそうだ。構造的にもいろいろな新発見があり、多くの学者の関心を引いている。NASAがトランプ大統領の人员削減のせいで様々な公表ができないでいるという説の一方、これは実は悪意を持つた異星人の宇宙船だから、NASAは真実を伝えてないのだといったフェイクじみた話も、まことしやかなAI画像付きでSN Sを騒がせている。また「奇跡のリング」の木村秋則氏の「ホピ族の青い星」ではないか、世界の終わりではないかといふ噂も広まっている。

恒星間天体が話題になつてゐる。恒星間天体とは、太陽系の外、つまり別の恒星系で形成され、星間空間を旅して太陽系に一時的に入り込んできた天体のことだ。彗星や小惑星、あるいは惑星のような天体(ただし恒星やその残骸ではない)が含まれる。これまでに三つの天体が発見されている。一つ目は2017年11／オウムアムア、二つ目は2019年21／ボリソフ、そして、本年5月の31／アトラスである。今は10月、10月の終わりには31／アトラスは太陽に最も接近した。本稿が掲載される12月半ばには地球に最接近し、あとは太陽系から遠ざかるそうだ。今夏の31／アトラスはかなり大きく、予想外のデータが観測されているという。大きさも20数キロで長い尾を有しているそうだ。構造的にもいろいろな新発見があり、多くの学者の関心を引いている。NASAがトランプ大統領の人员削減のせいで様々な公表ができないでいるという説の一方、これは実は悪意を持つた異星人の宇宙船だから、NASAは真実を伝えてないのだといったフェイクじみた話も、まことしやかなAI画像付きでSN Sを騒がせている。また「奇跡のリング」の木村秋則氏の「ホピ族の青い星」ではないか、世界の終わりではないかといふ噂も広まっている。

恒星間天体が話題になつてゐる。恒星間天体とは、太陽系の外、つまり別の恒星系で形成され、星間空間を旅して太陽系に一時的に入り込んできた天体のことだ。彗星や小惑星、あるいは惑星のような天体(ただし恒星やその残骸ではない)が含まれる。これまでに三つの天体が発見されている。一つ目は2017年11／オウムアムア、二つ目は2019年21／ボリソフ、そして、本年5月の31／アトラスである。今は10月、10月の終わりには31／アトラスは太陽に最も接近した。本稿が掲載される12月半ばには地球に最接近し、あとは太陽系から遠ざかるそうだ。今夏の31／アトラスはかなり大きく、予想外のデータが観測されているという。大きさも20数キロで長い尾を有しているそうだ。構造的にもいろいろな新発見があり、多くの学者の関心を引いている。NASAがトランプ大統領の人员削減のせいで様々な公表ができないでいるという説の一方、これは実は悪意を持つた異星人の宇宙船だから、NASAは真実を伝えてないのだといったフェイクじみた話も、まことしやかなAI画像付きでSN Sを騒がせている。また「奇跡のリング」の木村秋則氏の「ホピ族の青い星」ではないか、世界の終わりではないかといふ噂も広まっている。

恒星間天体が話題になつてゐる。恒星間天体とは、太陽系の外、つまり別の恒星系で形成され、星間空間を旅して太陽系に一時的に入り込んできた天体のことだ。彗星や小惑星、あるいは惑星のような天体(ただし恒星やその残骸ではない)が含まれる。これまでに三つの天体が発見されている。一つ目は2017年11／オウムアムア、二つ目は2019年21／ボリソフ、そして、本年5月の31／アトラスである。今は10月、10月の終わりには31／アトラスは太陽に最も接近した。本稿が掲載される12月半ばには地球に最接近し、あとは太陽系から遠ざかるそうだ。今夏の31／アトラスはかなり大きく、予想外のデータが観測されているという。大きさも20数キロで長い尾を有しているそうだ。構造的にもいろいろな新発見があり、多くの学者の関心を引いている。NASAがトランプ大統領の人员削減のせいで様々な公表ができないでいるという説の一方、これは実は悪意を持つた異星人の宇宙船だから、NASAは真実を伝えてないのだといったフェイクじみた話も、まことしやかなAI画像付きでSN Sを騒がせている。また「奇跡のリング」の木村秋則氏の「ホピ族の青い星」ではないか、世界の終わりではないかといふ噂も広まっている。

恒星間天体が話題になつてゐる。恒星間天体とは、太陽系の外、つまり別の恒星系で形成され、星間空間を旅して太陽系に一時的に入り込んできた天体のことだ。彗星や小惑星、あるいは惑星のような天体(ただし恒星やその残骸ではない)が含まれる。これまでに三つの天体が発見されている。一つ目は2017年11／オウムアムア、二つ目は2019年21／ボリソフ、そして、本年5月の31／アトラスである。今は10月、10月の終わりには31／アトラスは太陽に最も接近した。本稿が掲載される12月半ばには地球に最接近し、あとは太陽系から遠ざかるそうだ。今夏の31／アトラスはかなり大きく、予想外のデータが観測されているという。大きさも20数キロで長い尾を有しているそうだ。構造的にもいろいろな新発見があり、多くの学者の関心を引いている。NASAがトランプ大統領の人员削減のせいで様々な公表ができないでいるという説の一方、これは実は悪意を持つた異星人の宇宙船だから、NASAは真実を伝えてないのだといったフェイクじみた話も、まことしやかなAI画像付きでSN Sを騒がせている。また「奇跡のリング」の木村秋則氏の「ホピ族の青い星」ではないか、世界の終わりではないかといふ噂も広まっている。